



イオンの森でユニークな取り組みがスタート

令和2年度は新型コロナウイルスの影響を受け、毎年行っていたイオンの森での植樹活動は中止となりました。その代わりとなる取り組みとして、綾中学校1年生が参加して「森の健康診断」という環境学習を12月10日に行いました。

これは、綾町と協働でイオンの森づくりを実施してきたイ



オン環境財団に加え、リモート・センシング技術センター（RESTEC）の支援を受けて実施する、最先端の学習です。中学生は、同所に植えられた対象木の樹高と胸高直径を測定し、専用のタブレットに入力することで樹木の体積を計算、その体積から二酸化炭素吸収量を算出しました。

こうして現地で得たデータと、リモート・センシング技術による人工衛星やドローン撮影のデータとを比較することで、子どもたちの環境に対する理解を深めるとともに、技術の精度の向上にも貢献することができます。フィールド調査による環境学習に最先端の技術を組み合わせることで、二酸化炭素蓄積量を毎年測定するというユニークな取り組みがスタートしたのです。

苗木の里親プロジェクト

3密を回避しながらの新しい森づくりとして、イオンの森周辺の地域の皆さんが苗木を1年間育て、翌年その苗木を植樹するプロジェクトも始まっています。

今回は綾町子ども自然クラブや、毎年イオンの森づくりに参加している地元の子どもたちを中心に、10種類約60本の苗木が育てられています。毎日の暮らしの中で苗木に触れ、森づくりへつなげる活動が一歩一歩広がっています。

■綾ユネスコエコパーク推進室

☎77・3482

- ・ユネスコエコパークセンター
は日・月曜日・祝日および12月27日(日)～1月4日(月)休館
- ・ホームページ随時更新中!

column

ヒクイナ

東南アジアなどの南方から日本各地に分布し、河川や水田などの水辺で暮らすヒクイナ。1990年代には生息環境の悪化により数が減っていましたが、最近は少し戻りつつあるようです。

ただ、冬になると暖かい地方に移動する生活に変化がみられるといえます。これまで冬にはあまり観察されていなかった本州中部以北でも目撃されることが増えているのです。地球温暖化の影響で越冬地域が北上していると考えられています。

地球規模の変化を私たちに身をもって教えてくれる重要な存在でもあるヒクイナ。町内では真冬でも川辺の草むらで発見されていますので、皆さんもぜひ探してみてください。

